

子ども食堂

安心・安全プログラム

子ども被害を防ぐために

本日の内容

1 「子どもの安心・安全」の課題

2 各団体でできること

3 便利ツールのご紹介

1.「子どもの安心・安全」の課題

1 「子どもの安心・安全」の課題

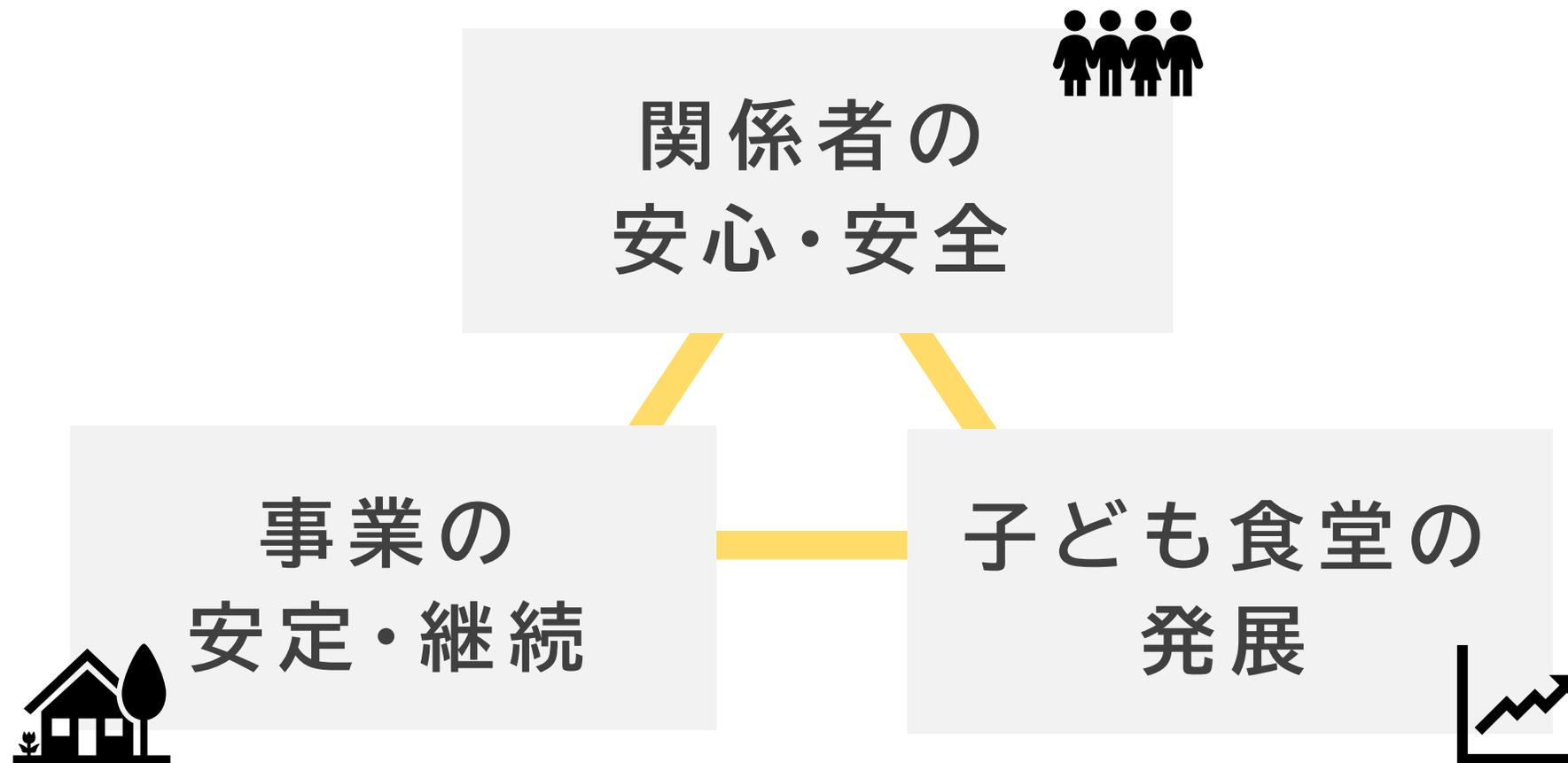
2 各団体でできること

3 便利ツールのご紹介

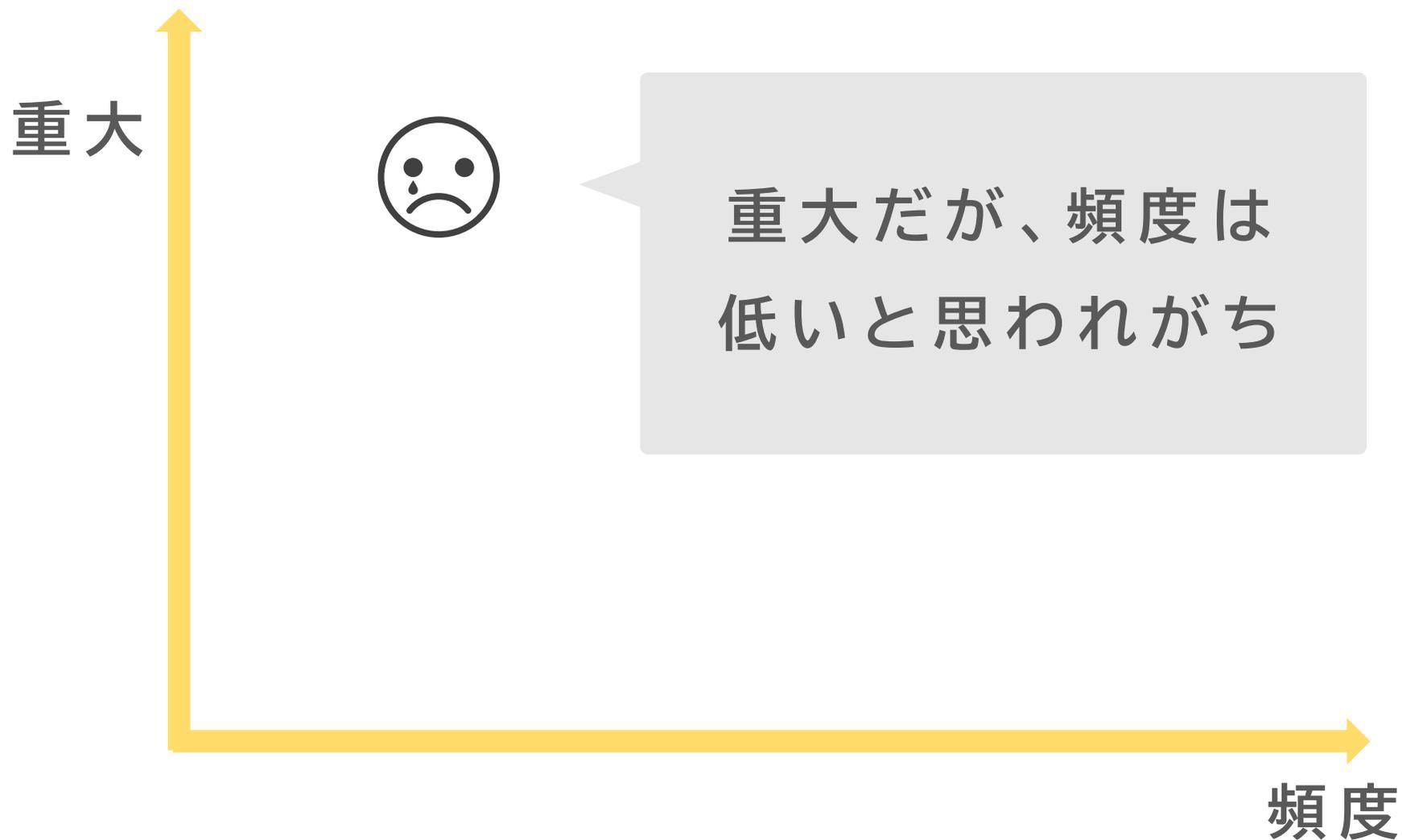
「安心・安全」の対象

- ハラスメント
- 肖像権
- プライバシー
- 個人情報

「安心・安全プログラム」の目的



課題の背景



頻度の問題

● ●
実は、子ども支援の場で、確実に起きている問題

学校

NGO

保育園

施設



子ども食堂が広がるほど、
発生する可能性は高まる

頻度の問題

被害者、特に子どもは訴えないため実態が見えづらい

- 何をされたかをよく理解できない、言語化できない
- 口に出したくない、思い出したくない
- 自分が悪い、汚れた、怒られる、差別される、嘘つきと思われる
- 援助が受けられなくなる
- そういうものだと思う、相談・訴えることを知らない
- 脅される、口止めされる



問題が知らない間に広がっている可能性も…

2. 各団体でできること

1 「子どもの安心・安全」の課題

2 各団体でできること

3 便利ツールのご紹介

2. 各団体でできること

× スタッフや参加者を疑う

× 今すぐ完璧な対応をする

○ リスク管理の意識と対応を継続する

安心・安全プログラムのステップ

団体として4つのステップを踏むことで、リスク管理ができる

1 基本的なリスクと
対応手法の理解

2 方針や計画を協議

4 進捗の確認・
振り返り

3 計画実行



6つの効果的な施策

具体的には、以下の施策を組み込むことができる。

 ルールへの組み込み

 参加者への啓発

 相談窓口制度

 採用時の対応

 リスクマネジメント体制

 問題発生時の対応設定

施策①：ルールへの組み込み

= 問題を誘発する環境を防ぐ

例



2人きりになる



大人からの接触



連絡先の交換

施策①：ルールへの組み込み

してしまいがちな対応にも注意

- ☹️ 不当な差(お気に入りの子や低年齢の子を特に可愛がる)
- ☹️ 乱暴な物言い(〇〇してやらないぞなど)
- ☹️ からかい、冗談で嫌がることをする
- ☹️ 呼び捨て、一方的にあだ名をつける
- ☹️ プライバシーにかかわることを不必要に尋ねる
- ☹️ 恋愛関係を発展させる
- ☹️ 子どもが出来ることを、必要以上に手伝う
- ☹️ 子どもの意見を取るに足りないものとして扱う

施策②：参加者への啓発

= 事前に子ども・保護者に周知する



「嫌なことはされない」
「相談してもいい」という土台を作る

権利意識を育て、参加者の今後の人生に
おけるトラブルも防ぐ効果もある

施策③：相談窓口制度

= 関係者が団体内で声を上げられる



Point!

- ☑ 2名以上の相談窓口（男女がより良い）
- ☑ 「どんな時に、どんな方法で相談できるか、相談した後どうなるか」が子どもに分かるよう明示
- ☑ アンケートも有効

施策④：採用時の対応

= 職員やボランティアの
団体加入時の意識合わせ

求人掲載

採用

教育

誓約書

募集内容にガイド
を掲載

経歴を確認するた
めの履歴書も有効

オリエンにおいて
ルールを説明

活動に参加する前
に誓約書を提出

施策⑤：リスクマネジメント体制

= 継続してリスク管理ができる体制

2名以上の
リスク担当者



定期的な実施

ルール啓発

誓約書提出

匿名アンケート

ブラッシュアップ

リスク見直し

ルール・施策見直し

改善

施策⑥：問題発生時の対応設定

= 問題対応を事前に想定する

➔ 被害者の人権侵害を最小限に抑える

問題発生！

直後対応

- ✓ 緊急性確認
- ✓ 被害者保護

外部連携

- ✓ 警察・医療福祉など連携
- ✓ 公表

体制・協議

- ✓ 対応チーム招集
- ✓ 協議

内部対応

- ✓ 被害者の保護・ケア
- ✓ 通報者の保護・ケア
- ✓ 加害者の処遇

調査

- ✓ 客観的な事実調査
- ※被害者・相談者・嫌疑対象者の秘密・権利遵守

事後対応

- ✓ 再発防止策の検討
- ✓ リスク管理の見直し

(参考) 年齢別対応

乳児



- ✓ 0歳でも油断は禁物。被害の可能性はある

小学生



- ✓ ルールを事前に伝えられる年齢
- ✓ 膝に座るなど一律禁止も可能

幼児



- ✓ 少なくとも大人から触れることは禁止できる
- ✓ トイレや外など見えづらい場所に注意

中高生



- ✓ 連絡先交換に注意
- ✓ 家から逃げてきたなどで、夜過ごす可能性も
- ✓ 本人の“同意”は意味をなさないことを理解

(参考)その他の留意点

- A) 子ども同士のトラブルもあり得る
- B) 団体の設立者、代表者、寄付者、著名人など力関係が生じる関係
- C) 対職員、対ボランティア、対保護者なども、力関係が生じる関係
- D) 複数人の加害者がいる場合も(調査などで発覚しづらくなり注意)
- E) 性的虐待は、必ずしも男性→女児だけではない
- F) 活動外の問題や公私混同も発生しうるため注意
- G) 「悪意」でなく「善意」からトラブルに発展する可能性も

難しい課題への向き合い方

事件が起こりやすいのは「大丈夫だろう…」と考える団体。
何ができるか議論を通して、中長期的に土台を作っていく。

善意や温かい触れあい
ならいいのでは？

団体ではお互いの信頼関係
を大切にしている。疑うよう
なことはしたくない。



子どもの安心安全を第一に
という共通土台に立って、
議論・教育を進める。



3. 便利ツールのご紹介

1 「子どもの安心・安全」の課題

2 各団体でできること

3 便利ツールのご紹介

3. 便利ツールのご紹介

別紙参照

初めてでもすぐに検討できるツールを用意しました。
各団体の計画に併せて修正して利用可能です。

 チェックリスト

 計画書シート

 団体内ルール

 参加者啓発資料
(年代別)

 スタッフガイド

 誓約書

ぜひ、6つのツールを確認し、
団体内で対応をご検討ください。

Point!

すぐに全て対応するよりも、
議論する団体風土をつくり、
継続的にリスク管理することを重視

さらにできること

さらに深めたい場合は…

- 他団体と情報交換、啓発
- CAPプログラム*の受講（子ども、スタッフ）
- 子ども向け絵本で啓発（例：とにかくさけんでにげるんだ）
- 「子どもと若者のセーフガーディング最低基準のためのガイド」を確認

*Child Assault Prevention:子どもへの暴力防止 26